

## 平成30年度 第3回八雲町総合開発委員会議事録（要旨）

### 【開催日時・場所】

平成31年3月25日（月）午後1時30分～午後3時15分  
八雲町公民館第1・2集会室

### 【出席者】

委員：秋松等、小笠原英毅、服部雅彦、佐藤馨、富田直和、阿部政邦、刀禰清貴、  
大野尚司、東間和浩、吉田久子、小出政彦、大野博子、竹浜俊一  
町：町長、両副町長、教育長（途中まで）、総務課長、財務課長、地域振興課長、  
八雲総合病院経営企画課長、企画振興課長、企画振興課参事、企画係長  
傍聴者：なし

### 【要旨】

- 第2期八雲町総合計画実施計画について説明し、質疑を受けた。
- 平成31年度予算の概要について説明し、質疑を受けた。

### 【内容】

#### 1. 開会

#### 2. 辞令交付

#### 3. 町長挨拶

#### 4. 会長挨拶

#### 5. 報告事項

- (1) 第2期八雲町総合計画実施計画（平成31年度～平成33年度）について  
資料1、資料1-1について企画振興課企画係長より説明。

委員：資料1、「No.38冷房整備事業」について、八雲総合病院の改築事業というのが平成25年から平成28年の4年間で実施された時点で冷房を敷設しなかった理由は何か。

町：冷房を平成27年に敷設しなかった理由は、一番は財源の問題。工事が実現するまでは、病院を整備する財源の確保に非常に苦慮していた。当時国の補正予算の基金対応分の北海道へ割り当てられた基金の執行残を有効活用することになり、極めて急に予算が付いたと記憶している。限られた財

源の中で、患者に対してメリットのある施設整備かを追求した結果、冷房を整備できなかったものと認識。北海道の特性として、本州に比べて夏場のうだるような熱気が長く続かないだろうという事情があったが、建物の構造的に下からの熱が上がっていくこともあり、一昨年が一番暑かった時は、およそ30度位の室温を記録する日もあり、早急に整備する必要があるということで、後の整備となってしまった。委員ご指摘の通り、当初より整備できれば一番効率的な形だったと思うが、かかる事情をお察しいただきたい。

委員： この病院の財源の一部は過疎債を利用するとして計画が進められて来たが、過疎債にも国の財源の制約があって45%の補助が受けられなかったかどうかを、現時点では私自身も追及できる術を持っていない。平成25年から平成28年に判明したのが、外交工事の設計をしていなかったことや、5%から8%に消費税が上がった分を予算計上していなかった問題。設計の積み残し、設計し忘れがあったのではないかと勘繰ってしまうこともあり、お尋ねした。

委員： 財源問題について、効率的でなかったが現在に至ってしまったという説明だった。北海道からこの時期に災害指定病院として改築したらどうかと話があり、急遽やろうということになったと記憶しているが、冷房を設計に入れても道としては応援するという事にならなかったかを聞きたい。

また、今新しい役場庁舎を建てようということだが、それ自体は反対しないが、議会報告会では国立病院跡地ではなく、養護学校跡地と言われていたと答弁があった。私は養護学校の敷地だけでは足りないのではないかと尋ねたが、十分な答弁は得られなかった。庁舎の用地問題は町民に全然明らかにされていない。出雲町に新しい医師住宅があり、養護学校に関しては栄町1番地に養護学校の教員住宅がたくさんある。それらも関連なく国立病院跡地だけ検討されているのか。この計画に載っている公営住宅や教員住宅の建替えとか、こういう問題にも大きく関わると思うが、全体として明らかにすべきと思う。

上八雲の研修牧場について、ある農家の方から「自分は65歳を過ぎてやめようと思っていたが、研修牧場があるのでやめられない」という話を聞いた。農民の方たちも含め頑張っていこうという形になっていないのではないか。行政が上から勧めているのではないか。成功するのかと疑問を感じる。

町： 病院改築の財源に関する北海道との協議の中では、特に冷房についての大きな議論は無かったと承知している。災害拠点病院だから冷房を付けなさいとか、補助金の性質上冷房は付けてはいけないとか、そういった話にはなっていない。

庁舎移転について、国立病院跡地だけではなく、養護学校の跡地も利用して、全体として庁舎移転を考えていくことで現在進めている。住宅の関

係は、栄町の養護学校の教員住宅は、本来全部が空くわけではなく、高校の先生も入っていることもあり、施設全体として空くのであれば町として後利用を検討もできるが、道の先生が残っている状態であるため町が取得する話は出ていない。養護学校の敷地については、道の敷地・建物であるため、それらを踏まえたうえで道や国立病院機構と交渉していくこととしている。出雲町にある5階建ての住宅についても、国立病院の敷地となっていることから、敷地と建物とトータルで国立病院機構と交渉していく。

研修牧場は、上八雲の農家の皆さんと何度も話し合いをしており、大変協力的。全部の農家が一致団結をして取り組んでいくということで意思確認を取っている。

委員： 病院の冷房の問題について、現実として時期が遅れて進められている。当初の工事で同時に敷設すれば費用が相当軽減された。町側が冷房施設を必要と考えない所の消極性からこの問題が発生したのではないか。町民も疑問をもっているのもう少し立ち入った説明をお願いしたい。

また、資料1の「No.1 役場新庁舎整備事業」について、全体の用地・建物問題の全貌が明らかにならないままでは、ひとの土地に建物を建てる計画になるのではないか。八雲町の中心が商店街からずれてしまうという心配の意見も町民から寄せられている。

町： 病院の冷房について、結果的にはコストだけ考えれば割高になったかと考えているが、当時の限られた時間と財源の中で、何に重きを置くかという議論をした結果であると振り返る。これを優先したからとか、冷房を当初から考えていなかったとか、今直ちに答弁するのは難しい。診療に関わる大事なところにお金をかけたとご理解いただきたい。

庁舎の関係について、基本計画の策定はコンサルタントに委託して、庁舎だけではなく町の施設全体を集約した形で移転していくことを検討する内容の予算となっている。商店街から中心がずれるのではという話は聞いている。委員ご指摘通り、町民の意見を聴きながら進めていくべきだと思っているので、町としても基本構想を策定する過程の中で町民の皆様に説明をし、意見を貰いながら進めていく。

住宅について、研修牧場の研修生をはじめ、様々な分野で後継者づくりをして、移住者を呼び込もうとするときに、住宅の不足問題はついてまわる。町が住宅を取得したときに、どう活用していくか検討していく。

委員： 外構工事の失念や、消費税率改正分3%を計上漏れ問題の延長線上で、今回も7200万円という町民の財産を失ったのではないかと疑念を持たれる恐れがあるということ。

町： 一括発注すれば費用を圧縮できるということは当然考えられるが、過疎債、病院事業債含めて手当をされる見込みになっているので、工事費の若干の増があるということは指摘を受けても仕方がないが、交付税が有利な起債が当てられるということなので、その点では当時やっても今回やっても変

わらない。

病院の改築に当たっては、補助があつて英断をしたと聞いている。ところが進み始めると建設コストも高くなり、住民、議会からもこんなにかかつて良いのかという意見があつた。外構の問題や消費税の問題もあつて、病院側も冷房設備のことについて言えなかつたのが実情だと思う。この2～3年、熱中症等々で北海道でも冷房が必要になつたということもあり、患者さんからも冷房が必要という意見があり、病院は特に体の弱い方がいるので町として決断をして冷房を付けたということで、どうかご理解いただきたい。

委員の皆様には財源を含め、病院に対してご心配をいただいているものと受け止めている。施設整備にあつては中長期的なニーズも踏まえ、今日いただいたご意見をきちんと病院幹部にも伝え、参考にしたいと思う。

委員： 総合病院の冷房整備事業について、建物が出来てから何年も経っていないのに整備しようとするからおかしいということだと思う。今後も、何年か経った時に改修した方が良いというのは出ると思うし、ではなぜ最初からそこまで考えなかつたのかという意見も出ると思う。最終的には総合病院の経営状態だと思う。投資して返し終わっていない段階で整備しようとするから問題になるのであつて、経営が上向きになっていけば問題にならないのだからと思う。

委員： 資料1-1の4ページに「職員の資質向上」とあるが、3月20日の道新に証明書手数料の不備という記事を見た。今までも多々問題が起きている。私は、課長が職員に任せるということではなく、見直し週間、検討会等の取り組みをしていけば問題は起きないのではないかと思う。

次に、8ページに「育成牧場整備事業」に牛舎・サイロ取壊工事とある。景観が大変素晴らしい場所で残念に思う。

また、22ページに「高齢者等入力料助成事業」に関連して、昭和湯の経営者が亡くなられたが、町営住宅に銭湯が必要という方がいる。例えばシルバープラザの再活用だとか、町として対策を考えているか。

町： 手数料のミスについては、再度点検をしていて見つかった。今後も年に1～2回はきちんと点検をしながら、振り返ることを続ける。

2点目の育成牧場の整備事業について、サイロの補修は、台風で壊れ修復が必要となっている。牛舎の方も殆ど牛が入っておらず、物置として使っているが、大分傷んでおり修復が必要となった。これからの利用や規模を考え、サイロを取り壊す方針。牛舎については、少し短くする方針で計画している。委員ご指摘の畜産資料の展示施設、展望台だが、町としても観光施設として有効だと認識しており、今回の整備の中できちんと整備していきたい。

3点目の昭和湯の関係については、平成29年8月に昭和湯の経営者が倒れられ、休業となっていた。町として直接浴場業に進出するわけにはい

かないが、やりたい人がいるということも聞いており、連絡を取り合ったりしている。経営者のご遺族が不動産会社に頼むことになっている話も掴んでいる。以前から経営者と懇意にしていた方が自分でもやりたいという話もある。昨年から何回も話をしているようだが、昨年10月に直接ご遺族と話しており、価格の面で折り合いが付かないので、もう少し様子を見ていきたいと聞いている。推移を見守りたい。

委員： 役場全体が緊張感を持って、町長がリーダーシップを持って、こういうことがまた起きないように内部で検討してほしい。

育成牧場については、サイロが無くなることは残念だが致し方ない。

昭和湯については、次の方がいるようだが、やらなかったら町の対策が必要だと思うが何か考えているか。

町： 昭和湯の件について、経営者のご遺族と連絡を取り、様子を見ているところだが、町としても何をどこまでできるか考えたい。

委員： 庁舎の移転の関係だが、町長が国立病院跡地に造ろうとしており、行政と議会が先行しているようだ。もう少し町民の意見を聴いて、国立病院以外にも検討して進めてほしいという話が出ている。

町： 庁舎移転は決定したことではないが、一番は役場庁舎や公民館が地震になって一番先に壊れるような建物だということ。その問題をクリアしたい。必ず移転しようとかではなく、構想を練りながら町民の意見を聴いていく。構想を練らなければ、意見も出ない。町としては、議員や町民の皆さんからも意見をいただくということは当然のことと思っている。まだまだ確定したのではないので、町民の意見を聴きながら進めていきたい。

委員： これから高齢化していく。距離的に遠すぎる。町でバスを出せば良いという問題ではない。町民が使う場所だから、町民が自分の足で行けるような場所を検討したらどうかと言われている。十分検討してほしい。

委員： 17ページの有機農業の推進と減農薬への取り組み強化、地産地消の推進はどのような取組をするのか。情報として、津別町だとオーガニック牛乳というのを売っている。JASの牛乳。町とJAと(株)明治が入って、オーガニックの町として売っている。研修牧場も作るわけで、ただの研修牧場であれば八雲を選択する必要がない。例えば有機農業を推進している町とすれば人も来やすいと思う。特徴的な農産物が意外と八雲町にあるが、あまり知られていない。地産地消の機会をもっと増やして、一般の人たちといっぱい触れあえる場所を作って、農産物もPRしていけば、もっと広い話になると思う。

また、育成牧場について、展望台が良い観光資源だと認識しているが、人がいっぱい来てしまうと逆にマイナス点も大きい。口蹄疫等の防疫の問題がある。あくまで預託している牧場だということは忘れないで欲しい。

委員： 24ページの中段に、地域高校就学支援事業とある。18日に八雲高校の合格者の発表があり、普通科3クラスに対して合格者が73名、ビジネス

科は15名だった。道教委の学級削減の予定は、平成33年に80名を割り込んだ場合には1学級を削減すると決まっているが、現行73名となれば80名を下回る。2年間前倒しで学級削減をする状況になっているが、まだ2次募集があり確定していない。平成26年度にビジネス科の合格者が7名しかいなかったこともあり、ビジネス科の削減もかなり前から話し合われていた。道教委の意向として普通科は80名となれば2クラスになっているが、ビジネス科は何名になったら削減になるのか。

今年度8,201千円の修学支援を計上しているが、この中には新たな項目として、通学定期券の2分の1助成だとか、ネット予備校受講料の2分の1助成となっている。もちろん子供たち、家庭に対して補助することは反対することではないが、学級削減を避けたいという意味でもし計上したのであれば遅きに失したと思っているので、経過を聞きたい。

町： 八雲高校の生徒数減少は八雲町全体の問題だと認識。就業を色々支援して生徒を募集するという施策は本末転倒だが、近隣の町が取り組んでいるので、八雲町も取り組まざるを得ない。ただ、生徒確保の観点だけではなく、子供たちに良い教育をしていくための施策。

委員： 家庭に経済的支援をすることと、学級削減の問題は別物として考えることは、私も町と同じ考えでいる。道内の高校は289校ある。そのうち公立高校は233校、私立は56校。300校くらいある中で、専門学科を設けている高校は92校、約3分の1ある。例えば稚内高校や美唄製菓高校のように看護師を養成するとか、三笠高校はパティシエや調理師、置戸高校は介護福祉士、ニセコ高校は緑地観光課などがあるように、何かに特化しなければ町外から生徒は来ないと思う。将来に活かせるものでなければ八雲高校に行きたいとはならない。今年は中学生が八雲で129名、熊石で7名、合計136名が卒業したが、八雲高校に入った生徒は88名で、48名の子供たちは町外に行っている。何かに特化した学科を八雲でも創出しなければ、八雲高校が無くなるという問題になると思うので、意見として訴えたい。

## (2) 31年度予算の概要について

資料2について財務課長より説明。

委員： 災害備蓄品事業では何を用意するか。

町： ポータブル石油ストーブが6台、LED投光器が28台、パーテーションが17台と言うことで考えている。これまでも毛布、マット、ストーブ、発電機などを整備している。

委員： 災害はいつ起きるか分からない。今後、年次計画で整備していただきたい。

6 その他  
なし